

## 尊敬と劣等感

尊敬と劣等感は条件による決まる

下記状況によりそれが主観的及び客観的に脳内で処理される

### (1) 社会での上下関係

- ①勤続年数の比較により判断される場合
- ②中途採用での場合

### (2) 自身には無関係な環境

- ③芸能界・専門的スキル職種

### (3) 親密関係を有する環境

- ④両親・兄弟・子供
- ⑤夫婦・恋人

### (対人感情)

- ①・・・少なからず劣等感を生ずる可能性があるが、割り切れる度合いが高い
- ②・・・①と比較すると、度合は相当は相当低い
- \* スキル者の転入・自身の転入
- ③・・・自身がその業界に在るとしても全く感覚の異なる分野（可能性は0に近い）
- ④・・・リラックス空間ゆえに度合いが高い
- ただし祖父母に対してはそれとは異なりそうである
- ⑤・・・ある意味第三者的立場により、また逆に自慢にもなり得るため度合は逆転する

私が幼稚園先生になったら、、、

- ①日本国憲法の基本原則3条文を卒園までに全て記憶
- ②日常会話レベルの英会話
- ③PCの基本的スキル
- ④音楽は楽器（ピアノ）演奏及び音符読み
- ⑤基礎体力作り及び柔軟運動

子供たちの間で、  
地獄の平日として語り継がれ、子供は帰ったらくたくたになるでしょう、  
しかし、5歳にして両親より知識体力共に豊富になり、

要するに、  
ヒトの一生で身に付く知識を2年間でマスターする、ただし経験は全くない、とする

そんな①～④まで逆転現象になると、  
多分に家庭自慢を通り越し、立場が逆転した尊敬感は生じないため、  
親子関係は多分に崩壊するのでは、、、  
多分に社会での上下関係を身に染みて感じている分に、、、  
それが内にて出さずば余計に感じ取るものでもある、、、

(注)

あくまでも小説ネタのレベルであり、肉体的精神的発達段階に上記全ての行動を行う事による、嫌気感による回避行動が生ずるのは間違いなく、ごく自然体で良い・・・

\*この小説ではあえて優越感という単語は表していない

